

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 青年前期から中期にかけて、色彩の嗜好はどのようになるか、さらにそのパーソナリティを調査することにより、いつ頃から嗜好色とパーソナル・カラーとを結びつけて考えてよいか、という問題について検討したので報告する。

2. 被験者は東京家政学院中学生・高校生(女子 13~18 才)延 880 名を対象に、日本色彩研究所作成の 150 色を用いて、質問紙法によりパネル調査をおこなった。色彩の観察は JIS Z 8723 に従った。

3. 年齢別色彩分布から 13~17 才までは、基本分類 16 種のうち、ブルー、レッド、ホワイト、イエロー圏を 70% 好み、18 才では 75% となる。

I と II のグループ間では差異が認められるが、いずれも年齢がふえるに従って、ブルー圏が減少し、イエロー圏は増加する。

各年齢間の相関関係から、I グループは移動型、II グループは安定型といえる。

さらにパーソナル・カラーとして特定の好みを示し始めるのは青年前期とも思われる。

パーソナル・カラーは自分の好きな色彩で自分の人格をあらわす色彩と解釈すれば、嗜好色と結びつく。